

DXA法骨密度測定装置

2019年9月導入

当院は腰椎・大腿骨・前腕に加え、体組成(全身の骨・脂肪量・筋肉量)まで測定できるDXA法骨密度測定装置を導入しました。

【骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版】では「骨粗鬆症診断にはDXAを用いて、腰椎と大腿骨近位部の両者を測定することが望ましい」と記されています。DXAはX線での検査ですが、低被曝※で高精度な測定が行え、高齢化社会に向け **寝たきりを防ぐ** ために骨粗鬆症の診断や予防の一環として効果を発揮する検査です。是非、この機会に骨密度測定をお受けください。



GE社X線骨密度測定装置 PRODIGY FUGA

※患者被曝量 腰椎37μGy 大腿骨37μGy 前腕2μGy 体組成0.4μGy 37μGyは通常の胸部一般レントゲンの約1/6程度に相当します。

40歳を超えたら定期的に受けましょう

こんな怖いデータもあります

大腿骨頸部/転子部骨折後の死亡率 10%

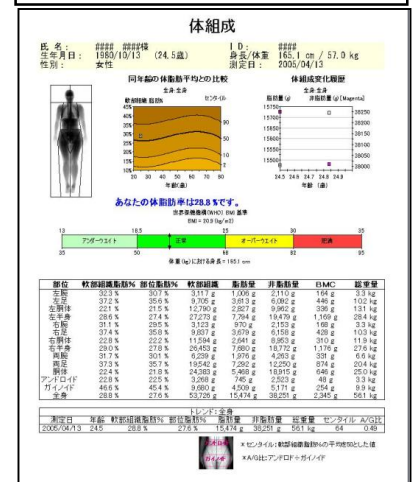
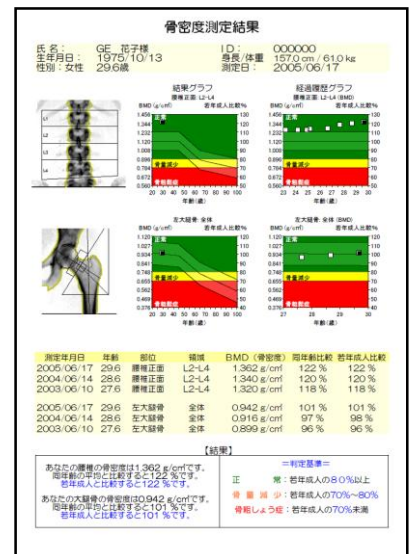
大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン

自分の骨が健康であるかどうかは、外見では判断できません。定期的に骨密度測定をおこなうことは、骨粗鬆症の予防や早期発見にもつながります。

早めに診断を受け、食事や運動療法に加え、場合によっては骨を強くするお薬や注射による薬物療法を早く開始することで、骨折がおきるリスクを減らすことができます。

ご心配、ご相談がある方は、整形外科医師または主治医までお問い合わせください。

解析結果



- 10~15分寝ているだけの検査です。
 - 計測時間は腰椎 約30秒、大腿骨近位部片側 約30秒、前腕片側 約22秒、体組成 約5分間です。
 - 体組成は骨量・脂肪量・非脂肪量を測定します。
- 主にサルコペニアの診断に応用やリハビリ中の患者さまの筋肉量評価、透析患者の身体管理に用いられます。被曝は少なく、腰椎や大腿骨検査に追加しても患者さまの金銭的負担はありません。※体組成のみの検査は行っていません

ご注意 以下の方は検査を受けられないことがあります。医師または担当技師にお知らせください。

- 妊娠または可能性がある
- 1週間以内にバリウム検査またはRI検査を受けた
- 仰臥位が出来ない
- 手術歴がある(腰椎・大腿骨・大動脈・下大静脈)